会報

日本食品化学学会　2024 年度第 1 回理事会 議事録

日　　時： 2024 年 3 月 8 日（金）13:00 ～ 16:00

場　　所： アットビジネスセンター PREMIUM 新大阪　9 階　911 号室
〒 532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島 5-14-10 新大阪トヨタビル 9F

出　　席： 鰐渕英機、伊藤美千穂、井之上浩一、日下部哲也、杉本直樹、東田千尋、尾崎麻子、鳥羽真由子

オンライン： 穐山　浩、小川久美子、片山　茂、川原信夫、矢野竹男、船見孝博、松藤　寛
（以上　理事 13 名、監事 2 名）

欠　　席： 髙橋　智（委任状：鰐渕理事長）
（以上　理事 1 名：委任状 1 通／鰐渕理事長）

【議　案】

1. 第 15 期評議員選挙開票および候補者の推薦（総会提出議案）
2. 2024 年度 第 30 回総会・学術大会について
3. 2023 年度 事業報告書案および決算報告書案の作成（総会提出議案）
4. 2024 年度 事業計画書案および収支予算書案の作成（総会提出議案）
5. 第 26 回 奨励賞受賞者の決定
6. 第 19 回論文賞、（広告主）論文賞の決定
7. 日食化誌の予定と進捗の報告
8. 2024-2025 年度編集委員の承認
9. 次々期（2026 年度）学会長の総会への推薦（総会提出議案）
10. 理事役割分担について
11. 評議員会提出議案について
12. その他（その他の総会提出議案、本会の運営に関すること等）

1. 第 15 期評議員選挙開票および候補者の推薦（総会提出議案）

総投票数：142 票、次の個人会員 28 名を評議員候補として総会に提出することとなった。

2025-2026 年度　評議員一覧（任期：2025 年 1 月 1 日～ 2026 年 12 月 31 日）

氏　名	所属・役職　（50 音順・敬称略）
秋場 高司	アサヒグループ食品株式会社
秋山 卓美	国立医薬品食品衛生研究所
阿部　裕	国立医薬品食品衛生研究所
天倉 吉章	松山大学
石井 雄二	国立医薬品食品衛生研究所
伊藤 澄夫	富永貿易株式会社
伊藤 里恵	星薬科大学
今井田 克己	香川大学
内山 奈穂子	国立医薬品食品衛生研究所
小笠原 英城	株式会社東海テクノ
奥村 克純	三重大学
小島 直人	三栄源エフ・エフ・アイ株式会社
笠島 直樹	サントリーウエルネス株式会社
魏　民	大阪公立大学大学院
窪崎 敦隆	国立医薬品食品衛生研究所
坂口 裕子	立命館大学
佐藤 恭子	国立医薬品食品衛生研究所
柴田 敏行	三重大学　大学院
多田 敦子	国立医薬品食品衛生研究所
堤　智昭	国立医薬品食品衛生研究所
堤　康央	大阪大学　大学院
徳楽 清孝	室蘭工業大学　大学院
長岡 寛明	長崎国際大学
林　新茂	東京農工大学
政田 さやか	国立医薬品食品衛生研究所
六鹿 元雄	国立医薬品食品衛生研究所
森川 敏生	近畿大学
森本 隆司	三栄源エフ・エフ・アイ株式会社

2. 2024 年度 第 30 回総会・学術大会について

杉本理事より第 30 回総会・学術大会の内容及び準備状況について説明があった。

（1）第 30 回総会・学術大会の開催

学　会　長：杉本 直樹（国立医薬品食品衛生研究所 部長）
日　　時：2024 年 5 月 23 日（木）～ 24 日（金）
場　　所：東京ビッグサイト（ifia 同時開催）
学会長講演：杉本 直樹（国立医薬品食品衛生研究所 部長）
「未定」

招 待 講 演： 講演者未定（厚労省（消費者庁）食品基準審査課）
「食品安全行政の現状と課題（仮）」
招 待 講 演： 野村 義宏（東京農工大学 教授）
「コラーゲンの摂取効果」
招 待 講 演： 山﨑 太一（産業技術総合研究所）
「有機化合物の定量分析結果の信頼性を高めるための不確かさ評価」
奨励賞受賞者講演： 未定
一 般 発 表： 口頭およびポスター（演題募集）
関 連 行 事： ①若手優秀発表賞　②交流会
③企業展示（ifia）　④ランチョンセミナー（2 社受付）
参　加　費： 学術大会　会員 4,000 円、非会員 6,000 円、学生 1,000 円
交流会　一般 8,000 円、学生 4,000 円

（2）第 30 回総会・学術大会実行委員（21 名）の承認

学術大会運営のため、下記名の実行委員の推薦があり、承認された。

杉本 直樹（大会長）（国立医薬品食品衛生研究所）
西﨑 雄三（国立医薬品食品衛生研究所）
穐山　浩（星薬科大学）
石黒　聡（日本食品分析センター）
本村 陽介（株式会社ウエノフードテクノ）
瀧川 義澄（アジレント・テクノロジー株式会社）
高柳　学（ジーエルサイエンス株式会社）
原田 修一（林純薬工業株式会社）
今立 恵美（株式会社食品化学新聞社）
羽田 三奈子（玄川リサーチ）
中川　誠（三栄源エフ・エフ・アイ株式会社）
阿部　裕（実行委員長）（国立医薬品食品衛生研究所）
黒原　崇（国立医薬品食品衛生研究所）
井之上 浩一（立命館大学）
秋場 高司（アサヒグループ食品株式会社）
丸山 奏子（サントリーホールディングス株式会社）
野原 健太（アジレント・テクノロジー株式会社）
植田 泰輔（シグマアルドリッチジャパン合同会社）
水井 浩司（冨士フイルム和光純薬工業株式会社）
森下 紗衣（株式会社食品化学新聞社）
森本 隆司（三栄源エフ・エフ・アイ株式会社）

3. 2023 年度 事業報告書案および決算報告書案の作成（総会提出議案）

下記の内容で総会への提出が承認された。

3-1. 事業報告書案

（1）第 29 回総会・学術大会の記録

学　会　長： 東田 千尋（富山大学和漢医薬学総合研究所 教授）
日　　時： 2023 年 6 月 8 日（木）～ 6 月 9 日（金）
会　　場： 富山国際会議場（富山県富山市大手町 1-2）
学会長講演： 東田 千尋（富山大学和漢医薬学総合研究所 教授）
「食薬区分を生かした和漢薬研究の社会実装」
招待講演 (1)：厚生労働省 医薬・生活衛生局 食品基準審査課
「食品安全行政の現状と課題」
特別講演 (1)：森川敏生（近畿大学 教授）
「生活習慣病予防に資する食品素材からの（機能性）関与成分の探索」
特別講演 (2)：中道範隆（高崎健康福祉大学 教授）
「食品由来成分エルゴチオネインによる脳機能改善効果」
特別講演 (3)：徳楽清孝（室蘭工業大学 教授）
「量子ドットを用いた変性タンパク質凝集過程のイメージング
～多面的スクリーニングシステムへの応用と食素材評価～」
奨励賞受賞者講演：
石井雄二（国立医薬品食品衛生研究所 病理部）
「食品香料の安全性に関する研究」

長野一也（和歌山県立医科大学 薬学部）
「高品質な保健機能食品の開発基盤の構築を目指した、高水溶性非晶質
クルクミン製剤の“物性 - 動態 - 機能 / 安全性”の多角的な連関解析」
一 般 発 表：口頭 29 題、ポスター 29 題
参 加 者 数：203 名
（内訳：会員 115 名、非会員 28 名、学生 19 名、招待来賓 18 名、スタッフ等 23 名）
関 連 行 事：① 評議員会（6 月 8 日）および編集委員会（6 月 9 日）
② 若手優秀発表賞　③ 交流会
④ ランチョンセミナー 2 件　⑤ 企業展示（6 月 8 日、9 日）
参　加　費：学術大会　会員 4,000 円、非会員 6,000 円、学生 1,000 円
懇親交流会　一律 1,000 円

（2）ifia JAPAN 2023 食の安全・科学フォーラム
テ　ー　マ：水産食品の安全性
Sea hood Global Standard and safety
主　　催：日本食品化学学会、日本食品微生物学会、日本食品衛生学会
共　　催：日本食品衛生協会、食品産業センター、食品化学新聞社
日　　時：2023 年 5 月 17 日（水）　10 時 00 分～ 15 時 00 分（受付開始 9 時 30 分）
場　　所：東京ビッグサイト　会議棟 605
演題及び講師：
第一部　水産食品の安全性と規格
厚生労働省医薬・生活衛生局 食品監視安全課 課長補佐　内海宏之 氏
「水産食品の安全性確保：ハザードとリスク管理」
一般社団法人 食品安全マネジメント協会 理事長　大羽哲郎 氏
「JFS-B 規格の概要と水産加工食品における JFS 規格取得事例紹介」
第二部　製造現場におけるリスク要因とその対応
東京海洋大学 名誉教授　木村凡 氏
「再注目されるリステリア管理」
一般社団法人大日本水産会 輸出促進部 部長代理　山口隆宏 氏
「FDA 魚介類と魚介類製品におけるハザードと管理の指針の紹介」
国立医薬品食品衛生研究所 衛生微生物部 第二室長　大西貴弘 氏
「アニサキスを中心とした寄生虫由来水産系食中毒」
国立研究開発法人 水産研究教育機構 水産大学校 食品科学科 准教授　古下学 氏
「水産分野における薬剤耐性」
参　加　者：94 名
参　加　費：前売り一般全日 11,000 円、前売り一般半日 8,000 円、
前売り会員全日 9,000 円、前売り会員半日 6,000 円、当日 13,000 円

（3）第 39 回食品化学シンポジウムの開催
担 当 理 事：伊藤美千穂（国立医薬品食品衛生研究所 生薬部）
テ　ー　マ：いわゆる食薬区分とそのまわり
日　　時：2023 年 11 月 17 日（金）13:30-17:00
場　　所：Shimadzu Tokyo Innovation Plaza（神奈川県川崎市川崎区殿町 3-25-40）
講　演　(1)　合田幸広（国立医薬品食品衛生研究所 名誉所長）
「食薬区分の考え方と背景」
講　演　(2)　治田義太郎（厚生労働省監視指導・麻薬対策課）
「薬区分に関する実務・現状について」
講　演　(3)　池田秀子（一般社団法人 日本健康食品規格協会 理事長）
「健康食品の成分と食薬区分 ―新規成分の安全性確保を中心に―」
講　演　(4)　小川久美子（国立医薬品食品衛生研究所病理部 部長）
「食薬区分の毒性学的検討課題等について」

講　演　(5)　石田亮介（ハウスウェルネスフーズ株式会社）
「健康機能性食品の開発と食薬区分への対応の実際」
参 加 者 数：116 名（内訳：会員 31、非会員 58、学生 2、講師・座長 6、招待 7、取材 3、実行委員 9）
会　　費：会員（事前）2,000 円、会員（当日）3,000 円、非会員（事前）4,000 円、
非会員（当日）5,000 円、学生（事前）無料、学生（当日）100 円

(4) 日本食品化学学会誌　第 30 巻の発行

第 30 巻 1 号の発行　発行日：2023 年 4 月 28 日　発行部数：950 部
論文 3 編　ノート 2 編　資料 2 編　総頁数　：　67 頁
第 30 巻 2 号の発行　発行日：2023 年 8 月 26 日　発行部数：950 部
論文 3 編　ノート 3 編　総頁数　：　53 頁
第 30 巻 3 号の発行　発行日：2023 年 12 月 25 日　発行部数：950 部
論文 7 編　ノート 1 編　資料 1 編　総頁数　：　71 頁

(5) 理事会及び各種委員会の開催

理事会：2 回（書面理事会 1 回）、評議員会：1 回、編集委員会：1 回

(6) 会員数

2023 年 12 月 31 日現在：個人会員 539 名、法人会員 53 社、名誉会員 14 名

＜参考＞
2023 年度の入会：　個人会員　49 名、法人会員　0 法人
2023 年度の退会：　個人会員　34 名、法人会員　3 法人

	名誉会員	個人会員	法人会員	賛助会員
2023 年 12 月	14	539	53（68 口）	なし
2022 年 12 月	14	538	56（71 口）	なし
2021 年 12 月	17	552	60（75 口）	なし
2020 年 12 月	15	558	63（78 口）	なし
2019 年 12 月	15	565	65（80 口）	なし
2018 年 12 月	18	587	65（81 口）	なし
2017 年 12 月	18	586	66（82 口）	なし
2016 年 12 月	18	570	70（86 口）	なし
2015 年 12 月	18	533	70（86 口）	なし
2014 年 12 月	18	525	71（87 口）	なし
2013 年 12 月	18	537	70（86 口）	なし
2012 年 12 月	18	545	73（89 口）	なし
2011 年 12 月	18	535	75（94 口）	なし
2010 年 12 月	17	538	77（93 口）	なし
2009 年 12 月	18	580	80（96 口）	なし
2008 年 12 月	18	571	80（123 口）	なし
2007 年 12 月	19	551	84（127 口）	なし
2006 年 12 月	21	632	84（126 口）	なし
2005 年 12 月	9	628	83（126 口）	なし
2004 年 12 月	9	613	82（129 口）	なし

(7) 共催、協賛・後援

1) 他団体が主催で、本学会が共催となる学術集会
依頼なし
2) 本学会が主催で、他団体に共催を依頼する学術集会の場合
依頼なし

3) 他団体が主催で、本学会が協賛・後援となる学術集会の場合

＜協賛＞ 第 21 回食品安全フォーラム（日本薬学会レギュラトリーサイエンス部会）
第 20 回高付加価値食品開発のためのフォーラム（日本食品・機械研究会）
第 40 回日本毒性病理学会総会及び学術集会（一般社団法人日本毒性学会）
第 51 回日本毒性学会学術年会（日本毒性学会）

＜後援＞ 第 12 回低温・氷温研究会（低温・氷温研究会）

4) 本学会が主催で、他団体に協賛・後援を依頼する学術集会の場合

依頼なし

3-2. 決算報告書案

2023 年度決算報告書 (案)

(2023 年 1 月 1 日～2023 年 12 月 31 日)

収　入		
	予算金額	決算金額
会費 (個人)	1,698,000 円	1,611,000 円
会費 (法人)	2,100,000 円	2,070,000 円
会費 (賛助)	0 円	0 円
投稿料	822,000 円	898,000 円
広告料	1,060,000 円	1,160,000 円
雑収入	416,000 円	414,192 円
(収　入)	(6,096,000 円)	(6,153,192 円)
前期繰越金	4,122,779 円	4,122,779 円
合　計	10,218,779 円	10,275,971 円

支　出		
	予算金額	決算金額
学術雑誌発行費	4,290,000 円	4,036,342 円
学術大会費	500,000 円	141,808 円
シンポジウム費	200,000 円	35,495 円
表彰費	390,000 円	378,960 円
会議費	250,000 円	202,365 円
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ運営費	220,000 円	215,523 円
旅費・交通費	360,000 円	342,000 円
印刷費	90,000 円	90,530 円
郵送費	350,000 円	370,486 円
振替手数料	100,000 円	139,281 円
事務費	200,000 円	201,946 円
(支　出)	(6,950,000 円)	(6,154,736 円)
次期繰越金	3,268,779 円	4,121,235 円
合　計	10,218,779 円	10,275,971 円

2024 年 2 月 9 日

事務局長　井之上 浩一

会計監査報告

上記の決算書を承認するとともに、会則に従って適正に執行されたと認めます。

2024 年 2 月 13 日

監　事　　尾崎　麻子

鳥羽　真由子

4. 2024 年度 事業計画書案および収支予算書案の作成（総会提出議案）

下記の内容で総会への提出が承認された。

4-1. 事業計画書案

（1）第 30 回総会・学術大会の開催（ifia JAPAN 2024/HFE JAPAN 2024 と合同開催）

学　会　長：杉本 直樹（国立医薬品食品衛生研究所 部長）
日　　時：2024 年 5 月 23 日（木）～ 24 日（金）
場　　所：東京ビッグサイト
学会長講演：杉本 直樹（国立医薬品食品衛生研究所 部長）
「未定」
招待講演①：講演者未定（消費者庁 食品基準審査課課）
「食品安全行政の現状と課題（仮）」
招待講演②：野村 義宏（東京農工大学）
「コラーゲンの摂取効果」
招待講演③：山﨑 太一（産業技術総合研究所）
「有機化合物の定量分析結果の信頼性を高めるための不確かさ評価」
奨励賞受賞者講演：
一 般 発 表：口頭およびポスター（演題募集）
関 連 行 事：①若手優秀発表賞　②交流会、
③企業展示（ifia）　④ランチョンセミナー（2 社）
参　加　費：学術大会　会員 4,000 円、非会員 6,000 円、学生 1,000 円
交流会　一般 8,000 円、学生 4,000 円

（2）ifia JAPAN 2024 食の安全・科学フォーラム　第 23 回セミナー

テ　ー　マ：弁当・総菜の安全性　Safety of Delicatessen
主　　催：日本食品化学学会、日本食品微生物学会・日本食品衛生学会
共催（予定）：日本食品衛生協会、食品産業センター、日本食品添加物協会、食品化学新聞社
協賛（予定）：未定
日　　時：令和 6 年 5 月 22 日（水）　13 時 20 分～ 17 時 00 分（受付開始 13 時 00 分）
場　　所：東京ビッグサイト　南 3・4 ホール　セミナールーム 201
定　　員：250 名
演題及び講師：日本食品分析センター学術顧問　一色 賢司 氏
「コロナ禍後の生活様式の中で考えたい食中毒リスク（仮）」
厚生労働省健康・生活衛生局食品監視安全課 HACCP 推進室
「弁当・総菜の HACCP の考え方を取り入れた衛生管理―現状と課題―（仮）」
北里大学獣医学部　胡　東良 氏
「米飯に由来する食中毒（黄色ブドウ球菌、セレウス、ウェルシュ菌など）」
日本ハム株式会社 中央研究所　鶴田 慎太郎 氏
「惣菜工場における食物アレルゲン管理（仮）」
三栄源エフ・エフ・アイ株式会社 プリザベーションユニット
副ユニット長 課長　佐藤 浩之 氏
「弁当・総菜におけるハードル理論と食品添加物の効果的な利用（仮）」

（3）第 40 回食品化学シンポジウムの開催

担 当 理 事：松藤 理事
テ　ー　マ：食品及び食品添加物に関わる最近の話題について（代替食品、ナノマテリアル）
日　　時：（予定）2024 年 11 月 15 日（金）
場　　所：（予定）Shimadzu Tokyo Innovation Plaza
定　　員：150 名程度
会　　費：（予定）会員 2,000 円、非会員 4,000 円、名刺交換会 1,000 円

（4）日本食品化学学会誌　第 31 巻の発刊

第 31 巻 1 号　　2024 年　4 月発刊予定
第 31 巻 2 号　　2024 年　8 月発刊予定
第 31 巻 3 号　　2024 年 12 月発刊予定

（5）理事会および各種委員会の開催

理事会：1 回、 評議員会：1 回、 編集委員会：1 回

4-2. 収支予算書案 （2024 年 1 月 1 日～ 2024 年 12 月 31 日）

収　入			支　出		
	単価	予算金額	項目	数	予算金額
個人会員（539 名）	¥3,000	¥1,617,000	学術雑誌発行費	3	¥3,750,000
個人会員（滞納分）	¥3,000	¥114,000	学術大会費	1	¥500,000
法人会員（53 社 68 口）	¥30,000	¥2,040,000	シンポジウム費	1	¥200,000
賛助会員（0 社）	¥30,000	¥0	表彰費		¥480,000
投稿料		¥900,000	会議費		¥250,000
広告料		¥1,160,000	ホームページ費		¥220,000
雑収入		¥240,000	旅費・交通費		¥400,000
			印刷費		¥90,000
			郵送費		¥370,000
			振替手数料		¥140,000
			事務費		¥450,000
			諸会費		¥103,000
（収入）		¥6,071,000	（支出）		¥6,953,000
前期繰越		¥4,121,235	次期繰越金		¥3,239,235
合計		¥10,192,235	合　計		¥10,192,235

5. 第 26 回 奨励賞受賞者の決定

選考の結果、以下の 3 名に奨励賞を授与することが決定された。

- 候補者：　岩崎 雄介（星薬科大学）
  「食品中の機能性成分の相互作用によって生じる食品成分の化学的特性の変化」
- 候補者：　田中 誠司（国立医薬品食品衛生研究所 生薬部）
  「植物由来の健康食品の品質評価及び安全性担保に関する研究」
- 候補者：　真野 潤一（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構）
  「食品遺伝子検査の品質を保証する新しい技術の開発」

6. 第 19 回論文賞、（広告主）論文賞の決定

穐山編集委員長より編集委員から推薦された候補について説明がなされ、選考の結果、第 19 回論文賞として、下記論文に授与することが決定された。（学会誌掲載順）

- Lack of genotoxic mechanisms in isoeugenol-induced hepatocellular tumorigenesis in male B6C3F1 mice
  Yuji Ishii, Moeka Namiki, Shinji Takasu, Kenji Nakamura, Norifumi Takimoto, Tatsuya Mitsumoto, Kumiko Ogawa
  Vol.30(1), 9-22(2023)

- Identification of unknown plasticizers in polyvinyl chloride toys
  Koji Fujihara, Miku Yamaguchi, Yuzo Nishizaki, Yutaka Abe, Motoh Mutsuga, Naoki Sugimoto
  Vol.30(3), 149-157(2023)

穐山編集委員長より広告主論文賞について株式会社島津製作所から申請があり、編集委員からの候補について説明がなされ、下記論文に授与することが決定された。

- ディープラーニング等高線 HPLC 法を用いた食用きのこ識別に関する研究
  北尾修平、森山祐羽、高山卓大、井之上浩一
  Vol.30(3), 128-133(2023)

7. 日食化誌の予定と進捗の報告

穐山編集委員長より投稿および審査状況は順調であることが報告された。

8. 2024-2025 年度編集委員の承認

新任 1 名を含む 30 名が、2024-2025 年度の編集委員として承認された。

日本食品化学学会 編集委員会（2024 年 1 月 1 日～ 2025 年 12 月 31 日）

	氏名	新任	所属・役職　（50 音順・敬称略）
1	穐山　浩		星薬科大学 薬学部 教授
2	石井 里枝		明治薬科大学 食品衛生化学研究室 教授
3	一色 賢司		一般財団法人日本食品分析センター 学術顧問
4	井之上 浩一		立命館大学 薬学部 教授
5	小川 雅廣		香川大学 農学部 教授
6	奥村 克純	○	三重大学 招へい教授・名誉教授
7	小関 良宏		東京農工大学 工学部 名誉教授
8	片山　茂		信州大学学術研究院（農学系）バイオメディカル研究所 教授
9	川原 信夫		公益財団法人高知県牧野記念財団 理事長 兼高知県立牧野植物園長
10	魏　民		大阪公立大学 大学院 医学研究科 准教授
11	橘田 和美		国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 本部人事部 人事管理役 兼 人材育成室長 兼 ダイバーシティ推進室長
12	合田 幸広		国立医薬品食品衛生研究所 名誉所長
13	庄司 俊彦		国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 食品研究部門
14	白杉 直子		神戸大学 名誉教授
15	杉本 直樹		国立医薬品食品衛生研究所 食品添加物部 部長
16	田口 貴章		国立医薬品食品衛生研究所 食品部 室長
17	田中 卓二		岐阜市民病院 病理診断科部長・病理診断研究センター長
18	田村 倫子		東京農業大学 応用生物科学部 准教授
19	辻村 英雄		公益財団法人サントリー生命科学財団 理事長
20	手島 玲子		岡山理科大学 獣医学部 教授
21	中江　大		帝京平成大学 健康医療スポーツ学部 教授
22	西島 基弘		実践女子大学 生活科学部 名誉教授
23	林　新茂		東京農工大学 客員教授

	氏名	新任	所属・役職　（50 音順・敬称略）
24	増田 修一		静岡県立大学 食品栄養科学部 教授
25	松藤　寛		日本大学 生物資源科学部 教授
26	水上　元		名古屋市立大学 名誉教授
27	三宅 義明		愛知淑徳大学 健康医療科学部 教授
28	森川 敏生		近畿大学 薬学総合研究所 教授
29	矢野 竹男		三重大学大学院 地域イノベーション学研究科 教授
30	吉岡 靖雄		大阪大学 微生物病研究所 BIKEN 次世代ワクチン協働研究所 特任教授

9. 次々期（2026 年度）学会長の総会への推薦（総会提出議案）

次々期学会長として、天倉吉章氏（松山大学 教授）を理事会より推薦することが承認された。

10. 理事役割分担について

(1) 2025 年度シンポジウム専門担当理事の選任
片山理事が 2025 年度シンポジウム担当理事に選任された。

(2) 編集委員長の交代
2025 年度より穐山副理事長から松藤理事への交代が承認された。

11. 評議員会提出議案について

以下の議案を提出することを決定した。

(1) 本会の会務・事業などに関する意見など

(2) 理事候補について

12. その他（その他の総会提出議案、本会の運営に関すること等）

(1) 会費未納者について
井之上事務局長より、会費未納者についての報告がなされた。
それに伴い、「推薦者」などに問い合わせを行うこととした。
また、今後は入会手続きの際に「推薦者」の記載を必須として、これまでのような印刷（手書き記載・印）の郵送から Word ファイルのメール送信に変更することとした。

(2) 第 31 回総会・学術大会の報告
井之上事務局長より、第 31 回総会・学術大会について以下の報告がなされた。
・開催日：2025 年 6 月 5 日～ 6 日（予定）
・会　場：立命館大学びわこ・くさつキャンパス（予定）

(3) 顧問の委嘱について
理事長より、合田幸広氏が推薦され、承認された。

(3) 日本薬系学会連合について
穐山副理事長より、日本薬系学会連合の加入について状況報告がなされた。

以上

白石科学振興会　研究助成等
2024 年度募集

1. **助成の目的**　カルシウムの高度利用を可能にする科学と工学の振興を図り、カルシウムやカルシウム化合物の応用により現代社会が抱える諸課題を解決し、豊かで便利な社会の発展に貢献する。

2. **助成の種類／助成件数と助成額**
   (1) 研究助成：カルシウム関連の材料開発や生産に関する科学と工学に関する優れた研究に対する助成／ 10 件以内、100 万円 / 件
   (2) 技術者・研究者育成助成：カルシウム関連の諸科学と工学研究に携わる若手技術者・研究者育成のための助成／10 件以内、30 万円 / 件

3. **募集期間**　2024 年 5 月 1 日（水）～ 7 月 31 日（水）必着

4. **助成対象期間**　2025 年 4 月から 1 年間

応募方法その他詳細　下記ホームページ参照

連絡先　白石科学振興会　事務局　https://www.shiraishi.co.jp/about/shiraishi-fsd
660-0085 兵庫県尼崎市元浜町 4 丁目 78 番地（株式会社白石中央研究所内）
TEL：06-6417-3130　E-mail：shiraishi-fsd@shiraishi.co.jp

日本食品化学学会誌投稿規定

（2023 年 7 月改正）

日本食品化学学会誌（Japanese Journal of Food Chemistry and Safety, 略名 : 日食化誌）以下 “ 学会誌 ” は、学会員の食品に関連関与する化学物質の化学、安全、有用性、法律、経済、社会、歴史、行政、統計などに関する研究・調査結果を掲載することを目的とする学術論文誌であります。学会誌は、総説、論文、ノート、資料などの他、学会連絡事項等を掲載します。投稿および審査は全てオンライン投稿審査システム Editorial Manager®（以下 EM という）で行い、学会員の投稿原稿は複数の査読者の意見を基に編集委員が評価し、その採否等は編集委員会（以下、委員会）が行います。

学会誌には食品添加物、残留農薬あるいは食品汚染物の調査データであっても学術的価値のあるものは論文として掲載します。ただし、その際、調査数が少なかったり、系統だった調査が行われていない場合には返却またはノート扱いとする場合があります。また、動物実験のネガティブデータも掲載しますが、投与量や実験方法等が不適当なものはお断りする場合があります。

Ⅰ 学会誌投稿等の原則

1　会則第 9 条 3 項に基づき、学会誌へ投稿する者の筆頭著者並びに責任著者は学会員（個人会員及び法人会員を所属名とする者）である必要があります。ただし、委員会が依頼した原稿は除きます。
責任著者（Corresponding author）は、連絡者として「投稿原稿の表紙」（以下表紙という）を記載し、論文の代表者として、研究が日本食品化学学会倫理規定に従って行われていることを確約する署名を行います。責任著者は、和文論文の場合、論文 1 ページ目の欄外に、責任著者（連絡先）として日本語で、Corresponding author として英語で、住所と氏名が記載されます。英語論文の場合には、1 ページ目に Corresponding author として英語で、和文抄録のページに、責任著者（連絡先）として日本語で、住所と氏名が記載されます。
なお、論文が複数のグループで行われている場合を鑑み、責任著者は、2 名まで認めますが、その場合どちらかが、連絡者兼代表者として表紙を記載し代表者署名を行って下さい。

2　会誌への投稿は有料とします。ただし委員会が依頼した原稿は除きます。なお、受付の順番を待たず、直近発行の学会誌掲載を希望される場合は、別途その実費を支払っていただきます。

3　原稿の種類は下記に示す通りです。論文およびノートは、他の出版物に既に発表、あるいは投稿されていないものに限ります。刷り上がりは本文和文で 1 ページ 2 段組みで 26 字× 51 行となります。従って 1 ページ当たり最大 2652 文字となります。
1) 総説 (Review)：調査・研究論文の総括、解説等。編集委員会が依頼する場合もあります。
2) 論文 (Regular article)：科学的研究・調査の報告。
3) ノート (Note)：研究の概略を迅速に発表、または部分的調査・研究の発表。
4) 資料 (Research letter)：調査または統計等をまとめた報告（その結果を十分に論じたものは総説、論文とします）。学会員に参考となる記録やまとめ、学会員に役立つ行政、判例あるいは海外資料。委員会が提供する場合もあります。内容によっては投稿料を求めません。
5) 会員の意見：食品化学に関する意見、掲載論文に関する意見等。原則として投稿料を求めません。
6) その他：編集委員会にご相談下さい。

4　投稿原稿執筆にあたっては、とくに形式を定めません。要は読み易く、文献として理解しやすい様式および記述でお願いします。ただし、論文のタイトルは、分かり易いものとし、原則として副題は付けないで下さい。また、引用文献の記述には注意して下さい。（Ⅱ－ 3）引用文献参照）

5　論文の投稿は、和文でも英文でも構いません。図表も同様です。投稿原稿には英文抄録を原稿として付して下さい。また、英文論文の場合は、英文抄録の和文も別途添付して下さい。抄録は、一般学術雑誌の例で作成されて構いません。しかし本誌では英文投稿の場合、和文で会員が目を通すのに十分容易なように、また和文投稿ながら外国から文献請求があると予想される英文抄録の場合、これら抄録はより詳しく本文の主要図表も引用し、1 ～ 2 頁分を使用しても構いません。

6　和文論文への英文抄録には、日本語訳を付けて下さい。ただし訳文の掲載は致しません。

7　投稿原稿には別に示す表紙（A4 版縦）に所定事項を記入・署名の上、PDF にして EM にアップロードしてください。表題や連絡先など、記載内容に変更が生じた際も、その都度に修正したものをアップロードしてください。

8　掲載に際し、軽微な修正は委員会の判断にご一任下さい。もし投稿原稿の意を害した場合、その旨を寄せていただければ次号に掲載します。

9　注意：二重投稿などの不正が疑われた場合には日本食品化学学会誌倫理調査委員会規則に則った調査が行なわれ、その結果に基づき日本食品化学学会倫理規定に従う処分がなされることがあります。

Ⅱ 投稿原稿の様式

1　原稿の記し方と構成

1)　緒言、研究方法、結果など見出しの項にはⅠ、Ⅱ、Ⅲ…の番号を付して下さい。以下の番号には通例 1、2、3 …、1)、2)、3) …、(1)、(2)、(3) …として下さい。

2)　文献記述は次のことを守って下さい。
全文献共、同一形式（Ⅱ－3）引用文献参照）に従って、原則として英文記載として下さい。

3)　キーワードは和文、英文の両方で 5 句以内にお願いします。

2　表および図

1)　原稿本文中に表、図および画像を挿入する記述箇所、右横に挿入箇所を朱色で明示して下さい。

2)　図と画像のタイトルは図および画像の下とします。表のタイトルは表の上とします。なお、図表の下側に本文と併読しなくても理解できる程度に簡単な説明文が記述されていることが望ましいとします。

3　引用文献

1)　引用文献は 1)、2) で出現順に示し、最後に一括して番号順に列記する。ibid. や idem は用いない。

2)　欧文誌の引用：例①のとおりとする。雑誌名は略記名の定められているもの以外略さない。略記名が不明の場合は、略記せず完全誌名を記述する。

例①　Viberg, H., Fredriksson, A., Eriksson, P.：Neonatal exposure to polybrominated diphenyl ether (PBDE 153) disrupts spontaneous behaviour, impairs learning and memory, and decreases hippocampal cholinergic receptors in adult mice. Toxicol. Appl. Pharmacol., **192**, 95-106 (2003).

3)　和文誌の引用：誌名は原則としてヘボン式ローマ字書きで記述し、欧文誌名を持つものは、必要があれば丸括弧書きで付記する。正式な欧文誌名のないものは欧文誌名を付けてはならない。また、欧文誌名は、その略記名が定められているときは略記しても良いが、略記名が不明の場合は略記せず完全誌名を記述する。例②を参考にする。なお、英文標題がないものは標題をローマ字書きし、ローマ字のあとに丸括弧に入れて翻訳標題を付記する。

例②　Yoshimitsu, M., Hori, S.：Comparison of the DNA extraction methods from potato snacks and detection of genetically modified potato in snacks. Nippon Shokuhin Kagaku Gakkaishi (Jpn. J. Food Chem.), **10**, 165-170 (2003).

4)　欧文誌、和文誌とも、巻数を表記しない雑誌では、巻数の位置に年号を太文字で記載する。

5)　オンラインジャーナルの場合、ページ付けがある場合には、2)-4) に従う。ページ付けが無く論文番号がある場合には、巻号を記載し、その後に論文番号を記載する。

例③　Mabon, S. A., Misteli, T.：Differential recruitment of pre-mRNA splicing factors to alternatively spliced transcripts in vivo. PLoS Biol., **3**(11), e374 (2005).

6)　オンラインで事前公開された論文等で、まだ巻号、ページ、論文番号等が決定していない場合、あるいはこれらのものがない場合には、分かっている情報を記載し、その後に DOI を記載し、引用日について括弧書きで追記する。

例④　Xiao, B., Huang, X., Wang, Q., Wu, Y.：Beta-asarone alleviates myocardial ischemia-reperfusion injury by inhibiting inflammatory response and NLRP3 inflammasome mediated pyroptosis. Biol., Pharm. Bull., Article ID: b19-00926, doi:10.1248/bpb.b19-00926 (cited 2020-04-28).

7) 欧文単行本の引用：図書の一章又は一部分を引用する場合は例⑤、⑥、全体を引用する場合は例⑦を参考にする。ISBN が判明しているものは記載する。

例⑤ Porter, L. J., “The Flavonoids: Advances in research since 1986”, Harborne, J. B. ed., London, Chapman & Hall, 1994, p. 23-53. (ISBN 0-412-48070-0)

例⑥ Joint FAO/WHO Expert Committee on Food Additives 55th Session ed., “Compendium of food additive specifications, Addendum 8”, Rome, FAO, 2000, p. 49-50. (ISBN 92-5-104508-9)

例⑦ Watson, C. ed., “Official and standardized methods of analysis”, 3rd Ed., London, The Royal Society of Chemistry, 1995.

8) 和文単行本の引用：和文単行本を引用する場合、書名は原則としてヘボン式ローマ字書きで記述し、欧文書名を記す必要があれば翻訳し、ローマ字書きのあとに丸括弧に入れて付記する。翻訳本を引用する場合には、必ず著者及び原書名を記述し、翻訳者と翻訳書名を丸括弧に入れて付記する。図書の一章又は一部分を引用する場合は例⑧～⑫、全体を引用する場合は例⑬～⑮を参考にする。ISBN が判明しているものは記載する。ただし、和文原稿において、団体著者、団体編者の場合や、書名がローマ字書きをすると意味がわかりにくくなるものは、和文で記載してもよい。例⑯～⑱を参考にする。

例⑧ Shigematsu, Y., “Saishin No Masusupekutorometori (Modern mass spectrometry)”, Niwa, T. ed., Kyoto, Kagaku Dojin, 1995, p. 80-92. (ISBN 4-7598-0282-7)

例⑨ Suzuki, I. et al. eds., “Shokuhin Tenkabutsu Koteisho Kaisetsusho, 7th Ed.”, Tokyo, Hirokawa Shoten, 1999, D-661 D-667. (ISBN 4-567-01852-4)

例⑩ Ono, H. et al. eds., “Shokuhin Anzensei Jiten”, 1st Ed., Tokyo, Kyoritsu Shuppan, 1998, p. 246. (ISBN 320-06124-1)

例⑪ Kudo, I., Inoue, K., “Purosutaguranjin Kenkyuho, Jo-kan (Technique for the study of prostaglandin, volume 1)”, Yamamoto, S., Katori, M. eds., Tokyo, Tokyo Kagaku Dojin, **1986**, p. 47-53. (ISBN 4-8079-1305-0)

例⑫ Derome, A. E. (Takeuchi, Y., Nosaka, A. trs.), “Modern NMR techniques for chemical research (Kagakusha No Tameno Saishin NMR Gaisetsu)”, Kyoto, Kagaku Dojin, 1991, p. 185. (ISBN 4-7598-0226-6)

例⑬ Ito, Y. ed. (Division of Food Chemistry, Environmental Health Bureau, Ministry of Health and Welfare, Japan supervised), “Nipponjin No Shokuhintenkabutsu 1-Nichi Sesshuryo Jittai Chosa Kenkyu (Studies on daily intake of food additives in Japanese 1976-1985)”, Tokyo, Shakai Hoken Shuppansha, 1988.

例⑭ Niwa, T. ed., “Saishin No Masusupekutorometori (Modern mass spectrometry)”, Kyoto, Kagaku Dojin, 1995. (ISBN 4-7598-0282-7)

例⑮ Murota, S. ed., “Purosutaguranjin No Seikagaku (Biochemistry of prostaglandins)”, 1st Ed., Tokyo, Tokyo Kagaku Dojin, 1982.

例⑯ 厚生省生活衛生局食品化学課 “ 第 2 版　食品中の食品添加物分析法 ” 2000, p. 320-322.

例⑰ 農業環境保全対策研究会編 “ 残留農薬基準ハンドブック－作物・水質残留の分析法－ ” 東京、化学工業日報社、1995, p. 406-410.

例⑱ 動物性食品の HACCP 研究班編（厚生省生活衛生局乳肉衛生課監修）“HACCP: 衛生管理計画の作成と実践データ編 ” 東京、中央法規出版、1997, p. 148-152.

9) 官報、局長通知など和文原稿では例⑲、⑳に従い引用する（英文にしない）。英文原稿では、例㉑～㉓を参考に引用する。URL を記載する場合は例㉔、㉕を参考にする。

例⑲ 厚生省令第 50 号 (1995) “ 既存添加物名簿に関する省令 ” 平成 7 年 8 月 10 日。

例⑳ 厚生省生活衛生局長通知 “ 食品衛生法に基づく表示について ” 平成 7 年 10 月 12 日、衛食第 186 号 (1995).

例㉑ Japan's Specifications and Standards for Food Additives, 7th Ed., Ministry of Health and Welfare, Japan (1999).

例㉒ Ordinance No. 50 (Aug. 10, 1995), Ministry of Health and Welfare, Japan.

例㉓ Notification No. 186 (Oct. 12, 1995), Director-General of Environmental Health Bureau, Ministry of Health and Welfare, Japan.

例㉔ 消費者庁 “ 機能性表示食品の届出等に関するガイドライン ” https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/foods_with_function_claims/assets/foods_with_function_claims_210322_0002.pdf, last accessed on April 14, 2021.

例㉕ Report of the Subcommittee on pesticides and veterinary drugs of the food sanitation subcommittee of the

Pharmaceutical Affairs and Food Sanitation Council, 2015 20th January, http//www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11130500-Shokuhinanzenbu/0000074613.pdf, last accessed on May 3, 2021.

10) 和文誌及び研究所報告のローマ字書きと欧文名（丸括弧内）の例を下記に示す。
分析化学：Bunseki Kagaku（なし）
栄養学雑誌：Eiyogaku Zasshi (The Japanese Journal of Nutrition)
医学と生物学：Igaku To Seibutsugaku (Medicine and Biology)
医学のあゆみ：Igaku No Ayumi (Journal of Clinical and Experimental Medicine)
化学と工業：Kagaku To Kogyo (Chemistry and Chemical Industry)
化学：Kagaku (Chemistry), (Kyoto) 化学 (Kyoto) と科学 (Tokyo) を区別するため所在地を記入
日本農芸化学会誌：Nippon Nogeikagaku Kaishi（なし）
応用薬理：Oyo Yakuri (Pharmacometrics)
生化学：Seikagaku（なし）
食品衛生研究：Shokuhin Eisei Kenkyu (Food Sanitation Research)
薬学雑誌：Yakugaku Zasshi (Journal of the Pharmaceutical Society of Japan)
国立医薬品食品衛生研究所報告：Kokuritsu Iyakuhin Shokuhin Eisei Kenkyusho Hokoku (Bulletin of National Institute of Health Sciences)
日本醤油研究所雑誌：Nippon Shoyu Kenkyusho Zasshi (Journal of the Japan Soy Sauce Research Institute)
埼玉県衛生研究所報：Saitamaken Eiseikenkyusho Ho (Annual Report of Saitama Institute of Public Health)

11) 私信、講演要旨集（一般講演、シンポジウムなどを含む）、インターネットホームページ、未発表のものは文献として引用しない。ただし脚注に記載することは妨げない。

12) 脚注は *1、*2、*3 により表し、出現したページの下部に番号順に列記する。

4 その他の留意事項

1) 簡単な化合物名や動植物名は、文部省学術用語審議会編 学術用語集によります。用語集に記載のないものについては、広く学術的に用いられている用語を用いて下さい。ただし、字数の多い化学名、酵素名、外国地名、外国人名、および学術的に欧文の方が理解を得やすい場合は欧文で記載して下さい。

2) 動植物名：片仮名書きとし、学名はイタリック体とします。ただし食品として用いる場合はこの限りでありませんが、動植物、食品名などを学名によらず英語名で図表などで一覧表としてデータと共に示す場合は必ず日本名を（　）で併記して下さい。

3) その他ゴシック体（太い文字）、イタリック体（斜体）および学名などスモールキャピタルを必要とする場合は、その文字の下に朱書きでそれぞれ 〰〰〰、＿＿＿ および ═══ を記入して下さい。

4) J-Stage に掲載の都合上、外字フォントは使用できません。

5) 投稿原稿には、ページ番号に加え行番号を記載する。

6) 投稿規程全般について不明な点、特殊な要望のある場合は学会事務局にお問い合わせ下さい。

5 投稿の際の注意

1) ヒトを対象にした研究論文は、ヘルシンキ宣言（2008 年改訂）の方針に沿い、必要な手続きを踏まえていなければならない。特に臨床サンプルを扱う場合には、原則的に所属機関の倫理委員会などの公的審査会にて認められた研究内容で、同意書等を取得した上で得たデータでなくてはならない。

2) 動物を対象にした研究論文は、所属機関で規程される実験動物に関する管理と使用に関するガイドラインに従った旨を明記する。

Ⅲ 投稿の方法

1 投稿はオンライン投稿審査システム Editorial Manager®（EM）にて、システムの指示に従い責任著者が行って下さい。責任著者は EM のサイトにてユーザ登録のうえ、アカウントを作成する必要があります。原稿は Word、PowerPoint、pdf などの一般的なファイル形式でアップロードできますが、本文テキストは Word で提出してください。

オンライン投稿審査サイト
URL: https://www.editorialmanager.com/jjfcs

問い合わせ：日本食品化学学会編集委員会
TEL/FAX: 03-5498-5765　E-mail: jpnjfcs@gmail.com

2 受理決定後、出版のために印刷業者から著者校正ゲラが送られますので、確認し校正作業をおこなってください。また軽微な修正や誤植などを編集委員会から指示することがありますので、その際は指示に従ってください。

Ⅳ 掲載と費用

1 校正は初校、必要あれば二校を著者が行います。ただし校正時の加筆はご遠慮下さい。

2 掲載された論文については、下に定めた諸経費を請求します。
1) 基準投稿料：1 編につき個人会員 20,000 円、法人会員および企業 40,000 円
2) 規定頁（5 頁）を超過した場合は超過費を請求します。超過頁費（6,000 円 / 1 頁）は、19 巻 1 号掲載分より実施しています。
3) カラー頁がある場合は実費を請求します。
4) トレース：実費を請求します。
5) 別刷：実費を請求します。
6) pdf 作成：基本作成費 1,000 円プラス 1 頁あたり 1,000 円
7) 上記費用は投稿原稿掲載通知後、明細書により請求します。

3 掲載料の納入は原則として郵便振替をご利用下さい。（別刷代を除く）
郵便振替納入先：口座　00900-3-233186
加入者名　日本食品化学学会事務局
（通信欄に送金内容を記入して下さい。）

Ⅴ 付記

1 本誌に掲載された論文の著作権は、日本食品化学学会に属します。受理決定後は著作権譲渡書に必要事項を記入・署名の上、提出してください。

投 稿 原 稿 の 表 紙

投稿原稿の種類	総　説	論　文	ノート	資　料
投稿原稿の文字	和　文	英　文		

(提出原稿に対応するものを〇で囲んで下さい。)

投稿年月日	西暦　　年　　月　　日
論文等の表題（和文及び英文）	
著者名及び所属機関名（和文及び英文）	
キーワード（和文及び英文）	

連絡者の住所　（和文及び英文） 機関名（和文及び英文） TEL / FAX Email 連絡者の氏名　（和文及び英文）	〒(　　) TEL　　FAX

本研究内容は、日本食品化学学会倫理規定に従って行われていることを確約します。

代表者署名 _____

備考・関連事項など

日本食品化学学会理事及び監事（2024 年 1 月 1 日～ 2025 年 12 月 31 日）

理事長	鰐渕 英機	大阪公立大学大学院医学研究科環境リスク評価学特任教授
副理事長	穐山　浩	星薬科大学薬学部 教授
副理事長	小川 久美子	国立医薬品食品衛生研究所病理部 部長
理事	伊藤 美千穂	国立医薬品食品衛生研究所生薬部 部長
理事	井之上 浩一	立命館大学薬学部教授
理事	片山　茂	信州大学学術研究院農学系教授
理事	川原 信夫	公益財団法人高知県牧野記念財団理事長兼高知県立牧野植物園長
理事	日下部 哲也	独立行政法人医薬品医療機器総合機構 医療機器品質管理・安全対策部部長
理事	杉本 直樹	国立医薬品食品衛生研究所食品添加物部 部長
理事	髙橋　智	名古屋市立大学大学院医学研究科教授
理事	東田 千尋	富山大学和漢医薬学総合研究所教授
理事	船見 孝博	三栄源エフ・エフ・アイ株式会社取締役執行役員事業本部長
理事	松藤　寛	日本大学生物資源科学部教授
理事	矢野 竹男	三重大学大学院 地域イノベーション学研究科教授
監事	尾崎 麻子	大阪健康安全基盤研究所 衛生化学部主幹研究員
監事	鳥羽 真由子	サントリーホールディングス株式会社グループ品質本部安全性科学センター部長

日本食品化学学会編集委員会（2024 年 1 月 1 日～ 2025 年 12 月 31 日）

編集委員長	穐山　浩	星薬科大学薬学部 教授
編集委員	石井 里枝	明治薬科大学食品衛生化学研究室教授
編集委員	一色 賢司	一般財団法人日本食品分析センター学術顧問
編集委員	井之上 浩一	立命館大学薬学部教授
編集委員	奥村 克純	三重大学生物資源学部生物資源研究科招聘教授
編集委員	小川 雅廣	香川大学農学部応用生物科学科教授
編集委員	小関 良宏	東京農工大学工学部名誉教授
編集委員	片山　茂	信州大学学術研究院農学系教授
編集委員	川原 信夫	公益財団法人高知県牧野記念財団理事長兼高知県立牧野植物園長
編集委員	魏　民	大阪公立大学大学院医学研究科環境リスク評価学准教授
編集委員	合田 幸広	国立医薬品食品衛生研究所 名誉所長
編集委員	庄司 俊彦	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構食品研究部門食品健康機能研究領域食品機能評価ユニット
編集委員	白杉 直子	神戸大学名誉教授
編集委員	杉本 直樹	国立医薬品食品衛生研究所食品添加物部 部長
編集委員	田口 貴章	国立医薬品食品衛生研究所食品部 室長
編集委員	田中 卓二	岐阜市民病院病理診断科部長・病理診断研究センター長
編集委員	田村 倫子	東京農業大学食品安全健康学科准教授
編集委員	辻村 英雄	公益財団法人サントリー生命科学財団理事長
編集委員	手島 玲子	国立医薬品食品衛生研究所 客員研究員
編集委員	中江　大	帝京平成大学健康医療スポーツ学部医療スポーツ学科動物医療コース教授
編集委員	西島 基弘	実践女子大学生活科学部名誉教授
編集委員	林　新茂	東京農工大学農学部客員教授
編集委員	増田 修一	静岡県立大学食品栄養科学部食品衛生学研究室教授
編集委員	松藤　寛	日本大学生物資源科学部食品生命学科教授
編集委員	真野 潤一	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構食品研究部門上級研究員
編集委員	水上　元	名古屋市立大学名誉教授
編集委員	三宅 義明	愛知淑徳大学食健康科学部教授
編集委員	森川 敏生	近畿大学薬学総合研究所教授
編集委員	矢野 竹男	三重大学大学院地域イノベーション学研究科教授
編集委員	吉岡 靖雄	大阪大学微生物病研究所 BIKEN 次世代ワクチン協働研究所特任教授

複写複製および転載複製をご希望の方へ

本会では複写複製および転載複製に係る著作権を学術著作権協会に委託しています。当該利用をご希望の方は、学術著作権協会（https://www.jaacc.org/）が提供している複製利用許諾システムもしくは転載許諾システムを通じて申請ください。尚、（社）日本複写権センター（同協会より権利を再委託）と包括複写許諾契約を締結されている企業の社員による社内利用目的の複写はその必要はありません。社外頒布用の複写は許諾が必要です。また、著者や非営利団体に該当する方が転載利用の申請をされる場合には、本会に直接お問い合わせください。

権利委託先：　一般社団法人　学術著作権協会　〒107-0052　東京都港区赤坂 9-6-41　乃木坂ビル 3F
FAX：03-3475-5619　E-mail：info@jaacc.jp

著作物の引用、翻訳等に関しては、（社）学術著作権協会に委託しておりません。直接、日本食品化学学会へお問い合わせください。

Reprographic Reproduction outside Japan

The Japanese Society of Food Chemistry authorized Japan Academic Association For Copyright Clearance (JAC) to license our reproduction rights and reuse rights of copyrighted works. If you wish to obtain permissions of these rights in the countries or regions outside Japan, please refer to the homepage of JAC (http://www.jaacc.org/en/) and confirm appropriate organizations. You may reuse a content for non-commercial use, however please contact us directly to obtain the permission for the reuse content in advance. Obtaining permission to quote, translate, etc., please also contact us directly.

Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC)
Address: 9-6-41 Akasaka, Minato-ku, Tokyo 107-0052, Japan
Website: http://www.jaacc.jp/
E-mail: info@jaacc.jp FAX: +81-33475-5619

日本食品化学学会誌　第 31 巻第 1 号

2024 年 4 月 29 日発行　［定価 2000 円］（会員無料）

編集兼発行人　日本食品化学学会
事務局　〒 525-8577　滋賀県草津市野路東 1 − 1 − 1
立命館大学薬学部・大学院薬学研究科 臨床分析化学研究室
e-mail : shokuhinkagaku@jsfcs.org　ホームページ : http://www.jsfcs.org//

印刷所　〒 541-0059　大阪市中央区博労町 1-2-2　株式会社 アピックス

©2024 Japanese Society of Food Chemistry